

小学校の水道教室

小学4年生は「社会」で水道のことを勉強します。東北みずの会南部副会長の母校で宮城県南に位置する角田市立枝野小学校で副会長と会員の山田教授（東北工業大学）が水道教室を開催しました。小学校は多いときは生徒が600人もいましたが現在は91人、4年生は学年の中でも少なく8人です。

最初に、副会長から学校に来ている水はどこから来ているのかと題して、写真を見せながら阿武隈川の取水口、浄水場、配水池を通して学校まで来ること、途中の水道管は最新の耐震管の模型を使い強い地震でも壊れないことを説明、実物の最新のポリ管や塩ビ管の水道管を見せながらこのような管をとおり水がくすることを説明しました。つぎに、山田教授からは「水のかがく・きれいな水をつくってみよう」と題して、東京と仙台の水道水、コントレックス（硬度1500）を使って硬度の違いによる味や飲みやすさを比べました。また、硬度の違いによる石鹸の泡立ちの違いを実験しました。浄水方法の実験では活性炭を使った吸着による色のついた水の浄化、砂、ビーズ及びビー玉を使った濁りのろ過の実験、ミョウバンと消石灰を使った濁りが固まる凝集の実験を行いました。一人一人が器具を使って実験できたこともあり最後まで楽しい授業でした。

